

今、私たちにできるのは、将来の世代への負担を増やさないこと

## 健全財政を目指して改革進行中

笛吹市では H17 年度から「ヒト、モノ、カネ、情報を効果的に活用し、スリムで魅力的な市政を実現する。」を目標に、第 1 次行財政改革に取り組んでいます。

### なぜ改革が必要？

#### 地方は財源不足

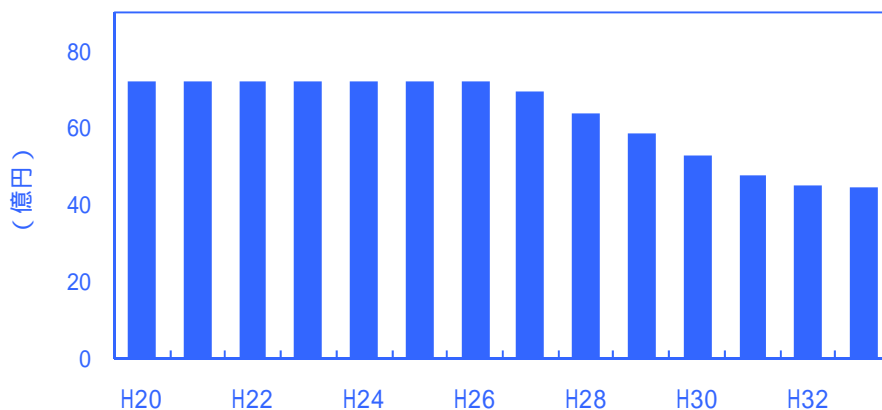
地方の借金残高は H20 年度末で 197 兆円と見込まれています。年間返済額は 13 兆円を超え、その一部は将来の交付税を担保とした借金で調達しています。

#### 地方交付税が 27 億円

合併した地方の市町村は、さらに深刻な問題を抱えています。合併特例措置が終了すると、主要な財源の一つである普通地方交付税が大幅に減るためです。

あくまでも試算ですが、笛吹市の H33 年度の地方交付税は H20 年度より約 27 億円減り、臨時財政対策債を含めた実質交付税は約 31 億円のマイナとなります。

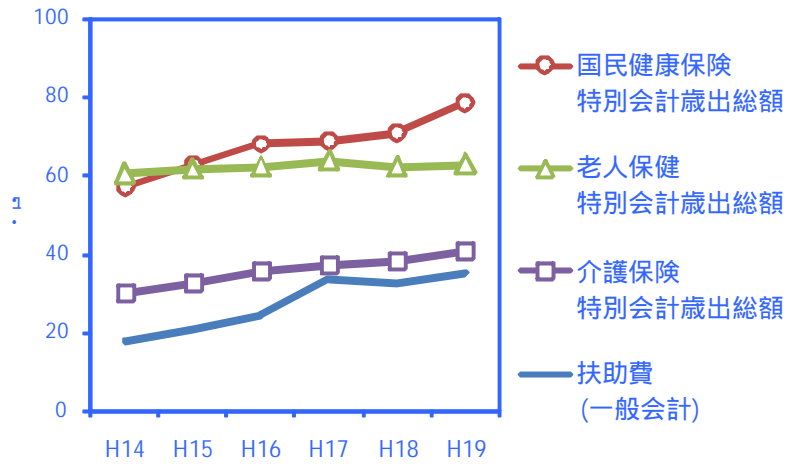
将来の笛吹市の普通地方交付税のイメージ



#### 少子・高齢化等に伴う経費増

財源が減っても医療や福祉・介護に係る経費は、毎年増加傾向にあります。H14～H19 年度の 5 年間で、児童手当や生活保護、高齢者及び障害者に対する助成等に係る扶助費は 2 倍になりました。また、社会保険に係る経費も増加傾向にあり、国民健康保険・老人保健・介護保険特別会計の歳出総額は増えています。

### 扶助費及び社会保険特別会計歳出総額の推移



### 思い切った改革が必要

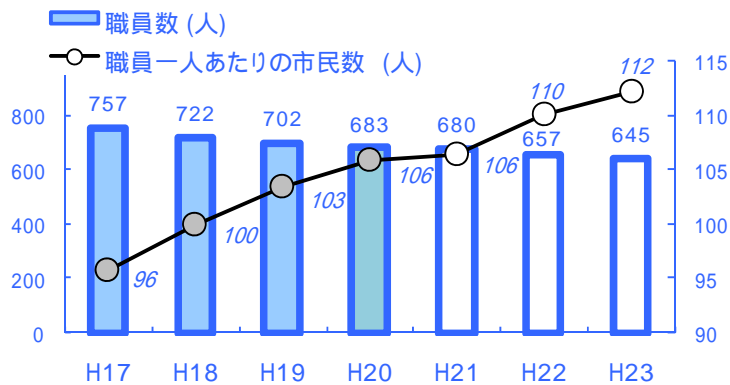
こうした状況に対応するためには、H33年度までに、現在より歳出を減らすか、税収を増やすしかありません。そのために、今から改革に取り組む必要があるのです。

### 改革の実績

#### 「スリムな市役所」づくり

人材育成、組織再編、民間委託を進め計画的に定員を見直しています。H17年度の職員数 757 人を 3 年間で 74 人削減し、累計で 11.2 億円の財政効果を得ました。スリムで魅力的な市役所実現に向けて改革が進んでいます。

### 職員数と、職員一人あたりの市民数の推移



### 公共施設運営の民間開放

すべての公共施設について公共関与のあり方を検証し、指定管理の導入を進めています。H18～H19年度の2年間で新たに39の公共施設の管理運営に指定管理制度を導入し、累計で1.2億円の財政効果を得ました。

### 窓口サービスの向上

日曜窓口の実施、証明書自動交付機の導入、総合案内の設置により、市民が市役所を利用しやすくなりました。

### 充実した広聴

市長への手紙、市民ミーティング、パブリックコメントを実施し、市民の声を市政に反映できる仕組みができあがりました。

### その他の改革

昇任・昇格試験の導入、行政計画の目標の数値化、財政状況の公表等24項目の改革に取り組んでいます。こうした改革により3年間で12億円の経費が節約できました。

## 今後の改革

### 市税納税率の向上

滞納処分や自主納税への意識を高める啓発活動など、市税徴収に力を入れてきましたが、3年間で納税率2%向上の目標を達成することはできませんでした。今後とも、税負担公平のためにも幅広い徴収対策を実施していきます。

### 行政経営の仕組みづくり

施策の成果を検証し、市民が本当に必要な施策に財源を重点配分できるよう、総合計画と予算編成が連動した仕組みを構築しています。

## 自治体の将来は？

財政健全化法がH21年4月に施行され、自治体の財政状況を判断する健全化4指標が一定の水準を超えると財政健全化計画の策定が義務付けられるため、「形式上」破たんすることはなくなります。

H20年度から、第1次笛吹市総合計画がスタートしました。まちづくりが本格化すると一時的に財政支出が膨らむことが考えられます。そこで、健全化4指標に注視し、将来の世代への負担を増やさないよう、さらなる改革を進めていく必要があります。